

医療法人社団リラ

溝口病院



病院長 溝口 明範

明けまして おめでとう ございます

明けましておめでとうございます。本年も
どうぞよろしくお願い致します。

平成19年の年明けとなりました。今年は亥
年は忘れられない大きな災害がありました。
1月17日に発生した阪神・淡路大震災です。
あのときの惨状はいまだに生々しく憶えてい



ることと思います。静岡県は東海大地震が来
ると言われて早や20年、次第に話題にも上ら
なくなりましたが、その時のためにいつも準
備は怠らないようにしておかなければなりま
せん。当院でも絶えず非常食や飲料水の備蓄
を続けてきています。

さて「いのしし」と言えば最近是人里まで
出てきて悪さをするようですが、なんとなく
ユーモラスな印象もあります。「猪突猛進」
などといった向こう見ずに突進する様を思い
浮かべますが、これではなかなか動作は機敏で
泳ぎも得意、嗅覚も優れているようです。
新年の抱負ですが昨年の1月に「日本医療機
能評価機構」の認定を受けた病院として職員
一同更なる医療の質の向上を目指し、地域か
ら信頼され必要とされる医療の提供を心がけ
る所存です。

昨今、医療費を含む社会保障費が削減され、
障害者自立支援法によって障害者の自己負担
が増加するなど国民にとって大変厳しい状況
ではあります。しかしそのような中でも私た
ちは医療の質の更なる向上を目指してこの1
年頑張りたいと思っています。

どうして薬を飲み 続けることが大切 なの？



薬局長 下山 俊明

皆様自身に病気であるとの認識がない場合に
多いなど、大切な服薬を継続するためには、
ご家族や援助者の精神疾患と薬に対する正し
い知識と協力が、他の慢性疾患以上に重要だ
と思います。

抗精神病薬は治療上重要で、病気の治療薬
であると同時に再発の予防薬でもあります。
抗精神病薬の服薬を中止した場合、再発する
ことが多く、更に服薬継続していた場合の再
発に比べ治療が大変になります。薬を正しく
服用するためには、自分がどんな病気にかか
っているかを理解することが必要です。さら
に自分の病気とその病気がおきる仕組みを
知ることにより、薬の必要性が理解できます。
精神科の病気は糖尿病などと同様長期間の
服薬継続が必要となります。血糖値など数値
で病気の状態を示すことができないため、目
に見える症状が治まった時点で病気が治った
と判断したり、かぜ薬のように症状が出てい
る間だけ薬を服用するものと思っている方も
多いのが現状です。また、幻聴・妄想・興奮
などの激しい症状がみられる急性期には、患
者様自身に病気であるとの認識がない場合に
多いなど、大切な服薬を継続するためには、
ご家族や援助者の精神疾患と薬に対する正し
い知識と協力が、他の慢性疾患以上に重要だ
と思います。

精神疾患の治療に際して患者様ご自身だけ
でなくご家族にも理解していただきたいこと
は、この病気は高血圧や糖尿病などと並び、
多くの方がかかる身近な病気であること。ス
トレスや様々な刺激・情報を処理する力には
個人差が大きく、ストレスの強さや期間など
がその個人の処理能力を超えた場合には誰で
も発病する可能性のあること。脳内の神経伝
達物質のバランスが崩れるなど様々な要因が
複雑に絡み合って発病する病気で、育て方や
家庭環境が原因でないこと。また、この病気
の治療経過は個人差が大きく、良くなったり
悪くなったりを繰り返しながら徐々に回復す
ること。患者様の努力や頑張りだけで克服す
ることは難しく、薬の服用を続けることで治
療することができる病気であり、病状に併せ
薬の量や種類を調節しながら、最終的には服
薬の終了あるいは再発防止や患者様の健康維
持のための必要最小限まで薬を減量できるこ
と。服薬を継続するうえで障害となる副
作用には、原因となる薬の減量・他
剤への変更・副作用を抑える薬の
併用などの対処法があることな
どです。症状の変化や副作用が
発現した場合には、まず医師に
報告することが重要ですが、あ
らかじめ対処方法を相談し
ておくことも大切です。

ガーデン・ホスピタル

街の中にありながら、みずみずしい緑と共に、やすらぎの空間が広がります。
すみずみまで気を配った安全性。プライバシー保護には万全のシステムを採用。
入院ではなく滞在であり、治療を超えた癒しの場でありたいのです。

2007.1
冬号
医療法人社団リラ
溝口病院

クリスマス会

「デイケア」

12月25日、午後からデイケアメンバーによるクリスマス会が開催されました。飾り付け・企画・司会進行など、全てにおいてメンバーが主体となって約3ヶ月間準備を進めてきました。出し物の他、ビンゴ大会やクリスマスケーキを楽しみました。

出し物では、日頃の練習の成果が発揮され、大きな盛り上がりを見せました。また、メンバー主体で行ってきたことによって、役割に対する責任感や取り組み方に違いが見られたようです。



「病棟」

12/21、1病棟ではクリスマス会が開催されました。じゃんけんゲームをしたり、患者様、スタッフ全員で「きよしこの夜」「ジングルベル」などを歌い、職員による出し物(赤鼻のトナカイ)が行われ笑いがおき盛り上がりが見られました。おやつの間にはBGMにスタッフによるバイオリン演奏が流れ、楽しく和やかな1日となりました。



リスク・コミュニケーションについて

～作業療法科主催 第2回自主勉強会～

入院作業療法の活動紹介

入院作業療法は、病棟からの“第一歩”として位置付けられ、メンバー一人一人が目標を持って参加しています。現在は①月・木曜日の午前メンバー、②火・木曜日の午前メンバー、③月・火・木・金曜日の午後メンバーの3グループ編成で活動しており、それぞれのグループの参加者は15名～20名です。以下の表は、プログラムの一例です。

	月	火	水	木	金
午前	1・4病棟 軽作業	2・3病棟 軽作業	お休み	1・4病棟 軽作業	2・3病棟 軽作業
午後	卓球	大人の 塗り絵	お休み	創作	料理

午前中のグループで行っているのは、主にネジ作業です。ネジを数え、ケースや袋に詰めるといった内容の作業です。それぞれの作業には毎月工賃が支払われ、メンバー個人に還元しています。貯まった工賃で、希望者は半期に一度の食事会(外食)に行くことになっています。最近の作業療法では、工賃が支払われるような院内作業を行わないという流れになっていますが、作業を通してのコミュニケーションや“工賃を自分で稼いでいる”ということが、やる気や誇りを持つことに繋がっていることから、当院では院内作業というスタイルを続けているのが現状です。ネジ作業以外にも、ドッチビーやパターゴルフなどのレクリエーション活動もあわせて行っています。

午後のグループでは、大人の塗り絵や創作などの表現活動、料理や身だしなみなどの日常生活関連活動、スポーツ、外出などの様々なプログラムを行っています。どちらかと言うと、午後の作業療法プログラムの方が、より退院を目指し、社会参加を意識した構成となっています。写真は、創作プログラムでメンバーが作ったビーズアクセサリー作品です。これらの作品は、当院デイケア主催のバザーで販売することもあります。

われわれ入院作業療法スタッフは、病棟からの“第一歩”である入院作業療法活動での仲間との交流や体験を積み上げていくことが、病院からの“第一歩”につながることを信じています。



10月26日(木)デイケアルームにて、デイケア・入院作業療法スタッフを対象とした勉強会が行われました。9名のスタッフが参加し、OTジャーナルに掲載の「リスク認知とリスク・コミュニケーション」「作業療法場面におけるリスク・コミュニケーション」という2つの文献を読み、それぞれ意見を交換しました。

社会復帰部全体として、リスクについて取り上げていくことは難しいと考えられますが、各活動でのミーティングにおいて、スタッフが気付いたリスクや、実際に起きたヒヤリハットについての情報を共有していくことが大切だと感じています。また、多職種によるかわりの中で当然出てくるのが、「専門性の違いによる理解・判断・意識のギャップ」です。しかしながら、このギャップを取り扱うことや、それらをスタッフ間で共有することこそ、田浦なリスク・コミュニケーションを図っていく過程において非常に重要なことであると痛感しました。また、それらを共有するのはスタッフ間だけでなく、患者様・家族の間でも必要です。これらをどのようにしていくかの程度行っていくのかについて考えることが今後の課題と言えるでしょう。

作業療法科の自主勉強会は、今後も不定期開催の予定です。